

記者会見冒頭説明要旨

今回、関西の景気については、「新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状態にあるが、足もとでは、持ち直しの動きがみられる」と判断しています。国内外で経済活動の再開が進む中、個人消費に加えて、足もとでは、輸出・生産にも、持ち直しの動きがみられています。もっとも、先行きの不透明感が高いことなどから設備投資の増勢が一段と鈍化するなど、感染症の影響は依然として当地の経済活動を下押ししています。景気判断のポイントは以下の3点です。

第一に、輸出・生産についてです。世界的なテレワーク需要等も反映して、IT関連財が引き続き堅調で、足もとでは半導体製造装置の輸出も持ち直してきています。また、世界的に経済活動の再開が進む中、自動車関連財にも持ち直しの動きがみられており、関連する業種にも波及効果が現れ始めています。もっとも、そのペースは緩やかであり、先行きについては、世界的に雇用・所得の回復が緩慢な中で、現在の持ち直しのモメンタムが持続するかが、引き続きポイントとなると思います。

第二に、設備投資の動向です。企業収益が悪化する中、先行きの不透明感もあり、投資案件の見直しや先送りの動きが、製造業・非製造業ともみられています。製造業では、自動車や航空機関連を中心に、非製造業でも、鉄道、飲食、宿泊業などで設備投資の先送りの話が聞かれています。5Gやライフサイエンス、物流関連といった、成長分野については、引き続き積極的な投資計画が維持されているものの、全体としてみると、当地企業の設備投資は、増勢が一段と鈍化しています。

第三に、個人消費の動向です。経済活動の再開が進む中、百貨店の高額品や、家電、自動車の販売には、総じて持ち直しの動きがみられています。一方で、飲食・宿泊などのサービス消費は、依然として売上が大幅に減少した状態が続くなど、厳しい状況にあります。9月の4連休は久しぶりに人出がみられ、先行きも各種の消費喚起策から旅行需要等が回復することに期待する声も聞かれています。その波及効果も含め、消費動向について、しっかりとみていきたいと思えます。

関西経済は、持ち直しの動きがみられていますが、引き続きサービス消費を中心に厳しさが残るほか、雇用所得環境も弱い動きが続くなど、経済活動を下押しする圧力は依然として残っています。今後とも、感染症が当地の金融経済情勢に与える影響について、しっかりとみていきたいと思えます。